



思齊のしせい

大阪府立思齊支援学校 支援室だより
第66号 令和5年9月15日

Aさんから教えてもらった『^{かんもく}緘黙スイッチ・^{かんどう}緘動スイッチ』



普段はおしゃべり好きで冗談も楽しむことができるAさんは選択性場面緘黙症です。そんなAさんは小学生の時、学校で話すことができなかつたそうです。今では学校でも話せるようになり、安心できる環境の中では周りの人とのコミュニケーションを楽しめるようになってきています。

場面緘黙症は、不安障害に分類されており、『話さないことを自ら選択している』のではなく、『不安や恐怖によって話したくても話せない』状態であると考えられている。場面緘黙児が不安や恐怖を抱く対象は、人それぞれであり、その対象が比較的明確な子もいれば何が不安なのかそれが分からないことが『不安』であることがある。

(引用文献:学校における場面緘黙)

★場面緘黙症の症状は人によって違いますが、あるエピソードを紹介します。

『ダンス部なのに運動会では踊れない?』

ダンス部に入部し、踊ることが好きなAさん。ところが、運動会の練習ではダンスが踊れませんでした。後からAさんに理由をたずねると「緘動スイッチが入ったんです。スイッチが入るとできません、、、」とのこと。踊らないといけないことは分かっていますが、踊らないではなくて踊ることができない状態だったのです。

Aさんの言うスイッチとはある場面で「話せなくなる・動けなくなる」

ことを自分の言葉で例えたものです。スイッチは自分でONしているのではなく勝手にONされてしまうそうです。

誤解されるかも…
周囲の理解が大事



★他にも色々な場面でスイッチがONになることを教えてくださいました。

例 電車で座席が空いても座れない…

バイキング料理(人前で料理を選ぶこと)が苦手…

トイレに人がいると入りにくい…

みんなの前で拍手をするのが苦手…

★目標としたのは…

『できないこと(話せないこと)をできるよう(話せるよう)にする』ことを目指すのではなく、持っている力を様々な場面でAさんが発揮できるようになることを目標にしました。

『Aさん作、緘黙4コマ漫画』

Aさんは場面緘黙症についてよく説明をしてくださいました。絵が得意なので自分を主人公にした4コマ漫画を描くことをクラスで提案しました。自分のことを周りに理解してもらうための漫画です。Aさんは楽しみながら漫画を描いてくださいました。オリジナルキャラクターになったAさんが主人公の漫画です。

取り組みをする中でAさんは周りに自分のことを伝えることが上手くできるようになりました。安心できる環境の中でAさんらしさを発揮できるようになりました。周囲の理解と、今持っている力を発揮できるように支援することが大切だと改めて感じました。